

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年6月26日
第17号

教育実習生紹介



余市町出身。高校時代は長谷川由紀子先生のクラスで、「仲が良くまとまりがあった」という。教育実習でも由紀子先生のクラス、1年2組を担当する。

野球部員で、ファーストを守っていた。バスケット、バレーなど球技は得意。ボーリングや筋トレが趣味というアスリートだ。休日は「とりあえずいっぱい寝る」。服や香水（LOWE）の買い物に行ったり、実家の車で京極やニセコにドライブに行く。ゲームはプロスピ、ポケポケ、プロス

体育大好き、野球部先輩

加藤 光晟 先生

保健体育 1年2組担当

(北翔大学 生涯スポーツ学部)

スポーツ学科)

タなどを楽しむ。好物はソフトクリーム。

目標は中学校の保健体育の教員になること。教員採用試験の一次の結果を待っているところだ。双葉高校に実習に来たのは「お世話になった先生方に自分の成長を見て頂きたいから」だ。特に担任の由紀子先生や野球部の顧問の先生方にお世話になったと感じている。生徒の皆さんに「勉強を頑張ることはもちろんですが、高校生のうちにできることをたくさん楽しんでください」と語る。

大学で学んだことを試したい

紺野 一恩 先生

公民 1年3組担当

(北海商科大学 商学 商学科)

会館を借りて、ソーシャルディスタンスをとりながら、クラスの動画発表を視聴した。

ゲームが得意で高校生大会(スマホゲーム、第五人格)で全国ベスト8に入ったという。

商学科の勉強は「金融、貿易、国際関係、人的資源管理など経営と経済の融合」と話す。



担任は馬淵先生だった。中学から高1までバスケットボールを、また生徒会もやっていた。ちょうどコロナの影響で活動自粛を余儀なくされていた学年で2年生の学校祭は中止、3年生のときは企画書を提出し、市民

休日はゲームや食べ歩きを楽しむ。好物はスイーツ系、円山パンケーキがお気に入りだ。親御さんが小学校の教員で、その背中を見て育ってきたため、教員免許を取ることに。教育実習は大学で学んできたことを試し、実際に体験する良い機会になると考えた。

教員を目指す人には「知識をつけることはもとより、考えて話すこと、自分の考えをどれだけ分かりやすく伝えられるかが重要」と語る。生徒の皆さんには「今やっている勉強が必ず将来役に立つので、全力で取り組んでほしい」とメッセージを送る。

オタモイ地蔵尊、市民が例大祭短編アニメに、ネット配信も

講演会・情報交換会

6月21日、オタモイ地蔵尊例大祭(オタモイ海岸駐車場)と講演会・情報交換会(塩谷サービスセンター)が開催された。土砂崩れにより地蔵堂での参拝が困難となった現在、今後の維持管理や地蔵尊の存続が課題となっている。そんな中で、オタモイ地蔵にまつわる民話が「海ノ民話のまちプロジェクト」によりアニメ化されることになったという。

歴史 江戸時代末期から現代に至るまで篤く信仰され、約3000体のお地蔵さんを祀ったオタモイ地蔵尊は、北前船で小樽にやってきた人の遭難犠牲者供養として建立され、明治期以降は子宝地蔵として道内外から多数の参拝者が訪れるようになった。

参拝困難 明治期以降、代々、村上家が堂守を受け継いできた。2006年4月に発生した土砂崩れにより、オタモイ海岸の駐車場からオタモイ地蔵尊へ向かう遊歩道(約500m)に通行止めが続き、地蔵堂の参拝が困難となっていた。さらに堂守の村上洋一さんが2023年に亡くなり、今後の維持管理、地蔵尊の存続が課題となっている。

地滑りは予測不能 「オタモイ海岸とその周辺の地質」と題して講演された松田義章氏(北海道総合地質学研究センター)はこの地域



海から見るオタモイ地蔵堂。土砂崩れにより近づくことができない。



オタモイ地蔵尊

が海底火山が隆起して陸上で観察できる希有な地域であることを説明された。この地の安全性については「地蔵堂の崖の岩盤崩落はそれほどではないが、龍宮閣跡地は地質の境目で、地滑りの予測が難しい。地下水を抜く解決策はあるが、行政は慎重になるだろう」と語る。

北前船の歴史遺産

高野宏康氏

(小樽商科大学客員研究員)はオタモイ地蔵の由来、誕生の歴史から現代に至るまでの流れを追って説明して下さった。

オタモイ地蔵尊は忍路高島七地蔵の一つで、北前船主、住吉屋西川家が寺社の創立に関わってきた。北前船の「海の道」のつながりを伝える貴重な遺産といえる。

再開プロジェクト凍結

小樽屈指の景勝地であるオタモイ海岸は近年、再開プロジェクトにより、ジップライン、オタモイゲート、オタモイテラスの案が示されていたが、費用の問題で凍結となった。

短編アニメ化、12月完成

そんな中で、オタモイ地蔵尊を題材にした短編アニメの制作が決った。全国各地の海にまつわる民話をアニメ化する「海ノ民話のまちプロジェクト」の本年度の作品に選ばれた。12月頃完成し、インターネットでも配信されるという。移転を含めた今後の対応を考える上で、アニメ化により、伝説について広く知ってもらうことは大きな意義がある。

管理、継承、移転を共に考える

情報交換会では山岳救助隊員の方が「冬期に積雪を利用してロープワークで地蔵を引き上げることが可能である」と発言された。社会貢献活動として実施できるという。地蔵尊を巡る人の輪が着実に広がっていることを実感できた。